

シリーズ「心筋梗塞」④

心筋梗塞の薬物療法

国立病院機構和歌山病院

薬剤科 加藤あい(薬剤師)

心筋梗塞は心臓に血液を送る冠動脈が閉塞し、心臓に酸素が行き届かなくなるため、心筋が壊死する病気で、心筋梗塞の治療は、閉塞した血管を再開通することが第一です。冠動脈にカテーテルを挿入して閉塞している冠動脈を広げたり、ステント(格子状の金属でできた筒)を入れ、再開塞を防止します。これらの治療を受けて無事に退院できた後も、心筋梗塞は再発の可能性が非常に高いため、再発を予防することが重要です。この時に使われる薬についてお話します。

まず、血栓という塊をできにくくするため、アスピリンという薬が使われます。アスピリンは痛み止め等にも使用されますが、血栓の予防に使用する時は痛み止め少量です。少量のアスピリンには血液を凝固させる血小板の働きを抑える作用があります。また、冠動脈にステントを留置するとステントの金属表

面に血栓ができることがあるため、その場合は少量のアスピリンに加え、プラビックス(クロピドグレル)という薬を服用することがあります。これらの薬を服用すると、鼻出血や外傷による出血が起りやすくなります。そのため日常生活においては、けがをしないうちが好ましく、一度出血したら、しっかりと圧迫して完全に止血することが大切です。

また、高血圧や糖尿病、高脂血症といった病気は冠動脈の動脈硬化を悪化させて、心筋梗塞の再発の危険性が高まるため、これらの病気をしっかりと治療することも重要です。

また、血圧を下げ、心臓の負担を軽くするため、レニズイン(エナラプリル)などのアンジオテンシン変換酵素阻害薬(アンジオテンシン薬)が処方されています。この薬は血圧を上げる物質(アンジオテンシン)の作用を抑えることで、副作用に空咳があり、もしそのような症状が出た場合はプロプレス(カンデサルタン)などのアンジオテンシン受容体拮抗薬という、空咳が起る頻度が低いといわれる薬へ処方を変えられる場合があります。

心筋梗塞が起った場合はいかに早く治療できるかが生存率や後遺症の有無に影響します。ですから、病態が安定した後は生活習慣に気をつけ、しっかりと薬を服用することが再発予防につながります。心筋梗塞後に処方されたお薬は、自分の判断で中止したり、量を減らしたりしてはいけません。胸痛などの症状がなくなっても毎日忘れずに飲み続けることが大切です。

そのほか、メインテ